

團藤重光 （たぐらふしげあき） 刑法學者、法學博士。大正二年十一月八日岡山縣生

丸、平成二十四年六月二十五日没（一九三二—二〇一〇）。昭和十年東京帝國

大學法學部卒。二十一年東大教授となり、新憲法下の立法、法改正に

參與。四十九年最高裁判所判事、東京職參與、六十二年文化功勞者。

著書 『新憲法の研究』（合著・國家學會編、昭和二十一年十月一日有

斐閣）、『刑法の近代的发展』（昭和二十二年一月一日弘文堂書房）、

『先春』（有泉堂共編、昭和二十年十月二十日河出書房、法學新書）、

『裁判批判』（合著・シエリスト編集、昭和二十二年四月二十日

有斐閣、シエリスト選書）、『この一筋いづなび』（昭和二十一年

四月二十日白岩流書店）等。



新憲法の研究 國家學會編

新憲法の研究

國家學會編

有斐閣

